

「滋賀県多賀町との木育による造形プロジェクト」

連携場所：滋賀県犬上郡多賀町（大滝たきのみや子ども園）、京都府京都市（上京陵和園）

活動時期：2020年5月～2020年7月

代表者所属・氏名 発達教育学部 児童学科（矢野ゼミナール） 4回生・平塚晴花

活動目的

昨年から矢野ゼミナールで始まった多賀町との連携を引き継ぎ、この連携を利用して学生の立場から発信し、地域に貢献することが出来ないかと考えた。

また、今回新型コロナウイルスの影響により昨年の様に直接子どもたちとかわることが不可能となったため、会うことが出来なくても木の魅力や木を使ってあそぶ楽しさを伝える方法を現在の状況に沿って工夫することを課題とする。

環境

文化

豊かな心

経済

暮らし

活動の様子

対面でのワークショップが不可能となったため、様々な木のおもちゃの作り方を動画として届けることに



○カスタネットづくり



○大工さんごっこ



○木のペンダントづくり



以上の3種類の木のおもちゃを考案し、動画を作成した。

材料の用意や手順、動画撮影や動画編集など役割を決めて学生たちで取り組んだ。動画を届け見てもらう子どもたちや保育者の方々に伝わりやすいよう、制作している手元の見せ方や道具の使い方、のこぎりや木槌など子どもだけでは危険な場面は注意書きを添えるなど字幕の編集も考慮した。

活動成果

●学生としての成果

コロナウイルスによる異例の事態の中、動画制作という手段を選択し、間接的ではあるがより多くの子どもたちに何度もあそび方を振り返りながら、園や家庭など多様な状況で楽しむことのできるコンテンツを作ることが出来た。また、今回はおもちゃに使用した材料をキットとして2園に送ったが、日用品で手軽に用意できる代用品なども考え、提案することが出来た。

また、自分自身初めてリーダーとなり、主体となって活動に取り組んでいく中で、計画を立て仲間呼びかけ発信していく責任感や大変さを感じた。しかし、その中で仲間と何度も考え、互いの意見を伝え進めることで学ぶ事や、一人では思いつかなかったアイデアを知ることが出来た。改めて、人と人とが繋がり、協力し合うことの大切さを感じた。

●活動としての成果

対面でのワークショップは叶わなかったが、このような状況だからこそ、動画で伝える新しい発信の仕方考えることが出来た。実際に動画を見て下さった園の先生からは、「動画を何度も見返すことができ、字幕で詳しく材料の名称や手順が書かれていたので子どもたちに提案する保育者側としてもとても分かりやすく活用できると感じた。」と感想をいただいた。動画は何度でも再生でき、場所を問わず気軽に視聴できるため、園で作った後、家庭で保護者や友達と一緒にもう一度作ってみるなど、コミュニケーションを広げる機会にも繋がると感じた。

●今後の課題・解決策

今回見つけた反省・課題

- ・実際に子どもの作っている過程や様子を確認できない
- ・園や家庭で手軽に用意できる材料や教材研究が必要
- ・動画で作り方を伝えるため撮影方法や編集の工夫が必要



保育者の方々の意見も踏まえ、今回の様に様々な木のおもちゃの作り方の動画制作の継続と、新たに ZOOM などオンラインアプリを通して、子ども達と会話しながら子どもたちの制作のペースに合わせて一緒に木育を推進できるおもちゃ作りも検討する。